

# 佛教文學

第二十四号

昭和文庫  
第114号  
平成11年1月1日発行

佛敎文學合

芭蕉の俳諧と仏教	富山
掛軸伝記繪研究の課題 —法然伝繪から考える—	米倉迪夫
安居院遵憲の「へ説法」 —承安四年宮中最勝講における勸貢をめぐつて—	大島薰
常陽寺社放	中野真麻理
—南引親音・石守寺など—	
法華経注釈書の位相	
—「鐵鹿抄」の「訓詁之志」を端緒として—	渡辺麻里子
貞慶伝とその周辺	近本謙介
—海住山寺文書をめぐつて—	
想心中の見と観	
「信濃國聖事」の信貴山絵巻への展開	木村隆子
椎高妙安の「刈楚」	家郷正志
—花園大学今津文庫所蔵『諸冊抜萃』について—	中前正紀
『当麻曼陀羅疏』と常陸	木村正志
—聖観の説話享受—	上野麻美
「繼子いじめ譯」から見えるもの	池田潤子
—説経『もくれん記』考—	
石女地獄について	
「教化之文章色々」と「教化集」(般舟三昧院旧蔵)	齊藤研一
享保八年写『洛陽誓願寺本尊縁起』について	菊池政彰
佛教文学会会則	武和夫
事務局だより	